

牛久：学校周辺に見る自然

第2号 ひたち野うしく小学校

2018年4月22日発行

＜ 春の学校周辺で生きもの観察 ～②その他の植物たち＞

ひたち野うしく小3年生と歩いた学校うら。今回は、来ている虫は見つけれなかった（または写真にはとれなかった）けれど観察できた植物たちを紹介しします。



キク科のなかま、左からハハコグサ、オニタビラコ、ハルジオン。

まずは、キク科のなかまから。ハハコグサは、春の七草の「ごぎょう」。オニタビラコは近年、茎や花などのとくちょうから、アカオニタビラコとアオオニタビラコに分けられるようになりました。こちらはアカオニタビラコ。そして、ハルジオン。観察場所では少なかつたけれど、通学路の木の根もとにはたくさん生えていますね。



つづいて、カラスノエンドウなどと同じマメ科のなかま、シロツメクサ。花にはセイヨウミツバチなどがきて、みつを吸っていましたね。近いなかまでムラサキツメクサもありましたが、花はまだ咲いていませんでした。小さな花がかたまっているのが分かりにくいかもしれませんが、虫めがねで大きくしてみると、マメの花だと分かります。

マメ科のなかま、シロツメクサ。



つぎは、小さな黄色の花やハート形の三つ葉がかわいいカタバミ。小さなシジミチョウのなかまが、よくみつを吸いに来ています。くもると花はとじてしましますが、なんと夜には葉もとじてしまいます。どんなとじ方をするか、おうちのおとなといっしょに観察してみましよう。

くもると花がとじてしまうカタバミ。



左のあかむらさきの花は、**ホトケノザ**。
ヒメオドリコソウと同じシソ科のなかまです。春の七草に「ほとけのざ」がありますが、あれはキク科のコオニタビラコで、これとはちがいます。

小さな青い花がならんでいるのは、ムラサキ科の**キュウリグサ**。葉をもむとキュウリのおいがするといいますが、どうでしたか？
ホトケノザ(左)と、キュウリグサ(右)。



オレンジ色の大きな花が咲いていると呼んでくれたのは、**ナガミヒナゲシ**でした。ヒナゲシに似て、もっと実が長いのでこの名がついたようです。ヨーロッパからきた植物ですが今ではふつうに見られますね。

青い小さな花は、**オオイヌノフグリ**。これは教科書にもものっていて、知っている人も多かったけれど、上の方にももっと小さな青い花がついていますね。これはなかまの**タチイヌノフグリ**です。どちらも、ヨーロッパからきました。
ナガミヒナゲシ(左)と、オオイヌノフグリ・タチイヌノフグリ(右)。



北アメリカから来たアメリカフウロ(左)と、ヨーロッパから来たオオアマナ(右)。



これまで紹介してきたように、校庭や道ばたには外国から来た植物が多く見られますね。**アメリカフウロ**は、その名の通り、北アメリカから来ました。**オオアマナ**はもともとヨーロッパの植物で、花壇などに植えられていたのが広がっているようです。**最後にスギナ**。じつは土の下でつくしとつながっている、同じ植物なのです。【理科支援員：宮内】
つくしとスギナ。土の下でつながっている。